

<会員による自著紹介>

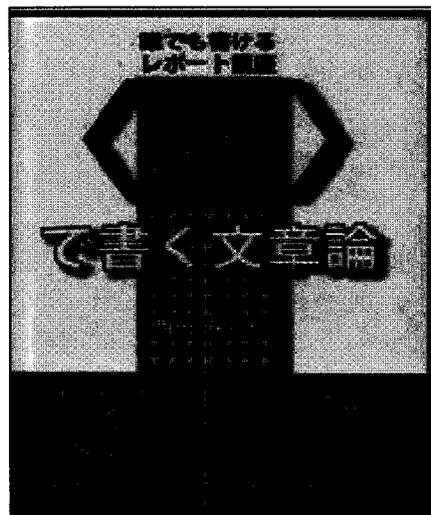
〈型〉で書く文章論

西田みどり

学習院大学

知玄舎（2012年発行）

定価 1,500円（税別）



本書は、大学におけるレポートライティング技法に二つの面からアプローチした実践書である。一つはレポート成稿過程を明示すること、もう一つは〈型〉を活用した文章構成法の提示だ。双方とも大学での、学生へのライティング指導の過程から生み出されたものである。

まず、成稿過程であるが、これは次のような10段階で行う。①大テーマの決定、②広範囲な情報収集、③情報読解：「感情タグによる直感読み」と「事実と意見の仕分け読み」、④情報整理：マッピング1作成、⑤テーマの焦点化、⑥焦点化したテーマでもう一度情報収集、⑦もう一度情報整理：マッピング2作成、⑧全体構成の作成(アウトライン)：文章構成ワークシート(型に対応した5タイプから選択)を活用して実践、⑨文章化：文章構成ワークシートにしたがってパラグラフライティングで文章化、⑩推敲：一晩寝かせて読み直し推敲シートでチェックする。以上の10段階を、練習問題、各工程に応じたワークシート、例文によって、実践的に学べるよう構成した(第1~2章)。もう一つの要素である文章の〈型〉の活用については、文章構成ワークシートと文章分析によって解説した(3~4章)。〈型〉とは、例示、列挙、比較、例証、あるいは帰納、演繹、時間順序、原因・結果といった文章作成に関わる要素を〈型〉化したものだ。文章構成法と展開法、そして導入部の書き方、という3種類の〈型〉があり、それぞれに5タイプの方法がある。ここでは紙幅の関係で文章構成法と展開法をご紹介します。文章構成法：①はじめに・本論・おわりに型、②具体例型、③意見・事実型、④一つには、二つには型、⑤比較型。展開法：①帰納的展開、②演繹的展開、③時系列的展開、④因果律的展開、⑤キーワード的展開。いずれもベースは〈序論・本論・結論〉である。現在の大学生は「文」は書ける。何度か練習すれば「パラグラフ」も書けるようになる。しかし「文章」になると情報の羅列になってしまいがちだ。〈型〉はそれを補う方法である。大学生の書けるようになりたいという思いから生まれた本書を、大学教育の現場でご活用いただければ幸いである。